

恩田家住宅主屋・恩田家住宅蔵

令和4年2月17日 国登録有形文化財（建造物）

●八潮市大字二丁目（個人蔵） ＊所有者の方がお住まいです。見学等はご遠慮ください。

恩田家住宅は、明治・大正期に八潮の伝統産業である染色業を家業とした家で、明治30年に蔵、大正6年に主屋が建築された。

主屋は木造平屋建て、寄棟造り^{さんがわら}棧瓦葺きで、建築当初は西側の庭園に近い3室（トコノマ・ナカノマ・ゲンカンノヘヤ）につながる部分を独立した式台玄関ではなく、出入口風に作り、南面に下屋があった。こうした客座敷^{いりかわ}前面に入側玄関を設ける例は松戸や流山周辺に広く見られる間取り形式で、その影響を受けたものと考えられる。昭和41年に大きく改修して独立した入母屋造^{いりもや}玄関となるが、縁側として当時の下屋の様子を今に伝えている。

蔵は木造^{しんかべ}真壁造り、棧瓦葺きで西側に大きく下屋^{げやびさし}庇を付け、農作業を行う上で必要なスペースを作っている。庇には染色時に河川の水で染料を洗い流す際に使用した船をつるしており、河川決壊時の水害予備船としての役割も果たしてきた。内部は柱高さの中間部分に^{はり}梁を架けて床面を作り、2層になっている。下層は北半分を土間、南半分を板床とし、板床はさらに間仕切りで2室に分けて、北室の内壁を鉄板張にして米などを貯蔵していた。

主屋・蔵の他、北側に「ふるさとの森」（八潮市所有）として屋敷林が遺され、都市化が進む八潮市域で、近世の形式を受け継いだ農家の姿を今に伝える環境が維持されている。

